

令和元年度 企画検討会報告書（素案）

■ 目次構成(案)

1. 研修体系の見直し・検討

- 1.1 コーディネーターの配置
- 1.2 有明の丘研修の講座の見直し
- 1.3 地域研修の見直し

2. 研修指導要領及び標準テキスト等の整備

- 2.1 令和元年度版「研修指導要領」の整備
- 2.2 標準テキストの整備

3. 能力評価(個人/組織)の仕組みの検討

- 3.1 効果測定手法(修了者アンケート含む)の検討
- 3.2 好事例の活用方策の検討

4. eラーニングの開発・運営

- 4.1 公開用eラーニングの検討
- 4.2 eラーニング「事前学習」の実施・管理

5. 人的ネットワークの活性化

6. 知識体系の整備

7. 課題と今後の検討

- 7.1 まとめと今後の課題
- 7.2 次年度以降の検討項目

■ まとめと今後の課題

(1) 研修体系の見直し・検討

1) 有明の丘研修の講座の見直し

「有明の丘研修」の講座の改善・充実を目的に配置した各コースのコーディネーターから指導・助言等を受け、単元の順番の適正化、学習目標や手法・内容の改善について見直しを行った。

次年度も引き続き、各コースのコーディネーターがワーキンググループ等を通じて今年度の研修の成果や近年に発生した災害の課題や教訓等を踏まえた見直しを行う。

2) 地域研修の見直し

地域研修の実施主体からの意見・ヒアリング結果、受講者・講師のアンケート結果等を基に公募要領・基本カリキュラムを見直し、令和2年度の地域研修の公募を開始した。見直し後の基本カリキュラムに基づき、地方プログラム（素案）を作成した。また、次年度以降の地方プログラムの改善の仕組み・流れを作成した。

次年度も引き続き、改善の仕組み・流れに沿って、公募要領、基本カリキュラム、地方プログラムの改善を行う。

(2) 研修指導要領及び標準テキスト等の整備

昨年度作成した研修指導要領を基に、令和元年度の「有明の丘研修」第1期版及び第2期版を作成した。加えて、eラーニング「事前学習」のテキスト作成に伴い、知識の見直しを行った。

「有明の丘研修」第1期及び第2期とも研修体系の見直しに伴い標準テキストを見直した。

次年度も引き続き、教えなければならないことと、実際に教えていることとの整合性が取れるよう、研修を通じて研修指導要領及び標準テキストを継続的に見直す。

(3) 能力評価（個人/組織）の仕組みの検討

昨年度の修了者へのアンケート調査およびヒアリング調査結果を分析し、研修の改善を図るとともに、効果測定手法を見直し、修了者アンケート等を実施した。また、組織へのヒアリング結果から人材育成の取り組み状況を整理し、防災スペシャリスト養成研修を有効に活用している事例としてとりまとめた。効果測定の仕組みとして、修了者アンケート等の調査・分析評価・研修等への反映の流れを「防災スペシャリスト養成研修」における評価・改善の仕組みとして作成した。

次年度も引き続き、効果測定の仕組みに沿って、研修の改善を行う。

(4) eラーニングの開発・運営

1) 公開用 eラーニングの検討

公開用 eラーニングの要件を検討し、利用目的や対象者、コンテンツの考え方・作成方法、実施時期、学習履歴等その他の機能、システム（LMS 等）の利用方針、管理・運用体制等の要件を明らかにするとともに、公開用 eラーニングの学習の流れを整理し、費用の概算を算出した。

次年度は整理した要件に基づき、公開用 eラーニングの試行を行い、令和 3 年度の実施の方向性を検討する。

2) eラーニング「事前学習」の実施・管理

昨年度の結果を踏まえて見直した今年度の eラーニング「事前学習」の実施方針に基づき、「有明の丘研修」第 1 期・第 2 期とも、防災基礎、災害への備え、警報避難、応急活動・資源管理、被災者支援、復旧・復興の 6 コースで実施した。

次年度も引き続き、eラーニング「事前学習」を見直し、実施する。

(5) 人的ネットワークの活性化

人的ネットワークを活性化する方策として、前年度のアンケート結果に基づき、名刺交換会、演習の班分け、交流会の取り組みを見直し実施した。

次年度も引き続き、人的ネットワークの活性化に係る取り組みを見直し、実施する。

(6) 知識体系の整備

今年度は、知識の体系に影響を与えるような大きな見直しはなかった。

次年度も引き続き、内容の充実及び体系化のための調査・検討を進めていく。

■ 次年度以降の検討項目と記載の概要

1. 研修体系の見直し・検討

- 今年度に整理した「防災スペシャリスト養成研修」評価・改善の流れにそって有明の丘研修コースを継続的に見直すとともに、内容の充実を図るべきである。また、次年度以降、講師を養成するためのコースや新たなテーマによるコースなどコース新設の必要性を検討し研修拡充も視野に入れ、研修体系の充実を図る必要がある。
- 地域研修は、その評価・改善の方法を検討するとともに、研修内容の充実をはかりつつ、地域が自立して研修を行える仕組みづくりをさらに進める必要がある。

1-1. 研修指導要領及び標準テキスト等の整備

- 評価・改善の仕組みにそって行う研修体系の見直しと併せて、令和2年度版の研修指導要領（案）を作成するとともに、標準テキストを見直す必要がある。
- 作成した研修指導要領を公開し、広く周知を図る必要がある。
- また、今年度に着手した地域プログラムの整備を進め、研修指導要領（案）の充実化とともに、地域研修の各単元向け標準テキストを整備する必要がある。

1-2. 能力評価（個人/組織）の仕組みの検討

- 有明研修における効果測定の仕組みにそって、研修修了者（個人）及び組織向けのアンケート及びヒアリング調査を実施し、その結果を踏まえて継続的に研修の改善をすべきである。
- 組織内で能力を有する人材の確保や蓄積の方法を調査し、組織の能力評価の方法の検討を行う必要がある。

1-3. eラーニング「事前学習」の開発・運営

- eラーニング「事前学習」の実施状況と実施結果を踏まえ、継続的に内容を改訂・運営する。また、未実施のコースのeラーニング内容を検討する必要がある。

2. 公開用eラーニングの試行・実施

- 今年度の検討結果に基づき、公開用eラーニングのコンテンツの整備及びその試行を行うなど、実施に向けた検討を行う必要がある。

3. 人的ネットワークの活性化

- 研修において意見交換や共同作業などの機会を利用し人的ネットワーク形成の強化・充実を図るとともに、研修修了者による研修後の活動発表会や勉強会など定期的な人的交流の機会確保や活性化促進の仕組みを検討する必要がある。

4. 知識体系の整備

- 研修体系の見直しに伴う研修指導要領（案）の見直しや検討を進める公開用eラーニングのコンテンツの内容と知識体系（案）もふまえ、現在の知識体系（案）の内容の適正化及び充実化を図る必要がある。